

英語のscreamに見られる音象徴と意味的特徴について*

金澤 俊吾¹

(2018年9月28日受付、2018年12月17日受理)

The Sound Symbolism of *Scream* and Its Semantic CharacteristicsShungo KANAZAWA¹

(Received: September 28, 2018, Accepted: December 17, 2018)

要 旨

語の音声が、それを含む語毎に指定される語彙的意味とは別の象徴的な意味を表す、音象徴と呼ばれる現象が見られる。音象徴が見られるオノマトペは、英語では語を構成する音声要素の一部に見られる。例えば、*splash*, *splatter*には、2つの子音/s/と/p/が含まれており、「水しぶきの動き」という概念的意味を表す。本論では、英語のscreamに見られる音象徴の意味は、当該の語にとどまらず、前置詞句with a screamを構成し、動詞句と修飾関係を結ぶ際、動詞句の意味とも対応関係にあることを主張する。コーパスを用いて、with a screamが生起する文を収集し、その意味的特徴を観察する。その上で、with a screamと動詞句との修飾関係は、典型的な修飾関係から周辺的な修飾関係に至るまで、連続体を成していることを提案する。また、screamの音象徴の意味に対応する音素の数と、with a screamと動詞句との修飾関係の度合いの強さとの間には相関関係が見られることを示す。

キーワード：音象徴、類像性、修飾関係、連続体

Abstract

The sounds of the word sometimes represent their original symbolic meaning, which is different from the lexical meaning of the word. It is called *sound symbolism*. In the system of sound symbolism in English, the sound symbolic meaning is realized as a part of the sounds forming the English word. For example, the two consonants, /s/ and /p/, which form verbs such as *splash* and *splatter*, suggest that liquid in small drops is spread over an area. In this paper, we investigate the sound symbolism of *scream* in English, clarifying the semantic relation of this sound symbolism with the sentence where the word occurs. Our claim is that the sound symbolism of *scream* should correspond not only to its lexical meaning, but also to the meaning of the verb phrase bearing a modification relation with an adverbial *with a scream*. First, the examples where this adverbial occurs are collected from a corpus, and their semantic characteristics are explored in detail. Based on this observation, we propose that the modification relation of *with a sound* with a verb phrase forms a continuity from the prototypical type to the peripheral one, finally showing that the number of a sound symbolism of *scream* reveals a correlation with the degrees of the modification relation of *with a scream* with its host verb phrase.

Key words: sound symbolism, iconicity, modification relation, continuity

* 本論を執筆するにあたり、査読者から貴重な助言を賜った。ここに謝意を表したい。当然のことながら、本論における誤り等に関する責任は、すべて筆者にある。なお、本研究の成果の一部は、JSPS科研費（課題番号：16K02774）の助成を受けてなされている。

¹ 高知県立大学文化学部 准教授 Faculty of Cultural Studies, University of Kochi, Associate Professor

1. はじめに

音声は、それを含む語に固有に指定されている意味とは別に、象徴的な意味を示すことがある。この意味を、音象徴(sound symbolism)と呼ぶ。例えば、日本語の擬態語「とんとん」は、軽く叩くことで放出される音を表すのに対し、擬態語「ころころ」は、ある事物が平面を転がる様子を表す。また、英語における音象徴は、語を構成する音声要素の一部に見られる。例えば、splash, splatterには、いずれも音素/s/と/p/が含まれており、これらの音素によって「水しぶき」の動きが表される。

田守・スコウラップ(1999)によると、音象徴には、様々な側面があり、少なくとも4つの課題が残されている。第1の課題は、音象徴が、様々なレベルで捉えられるということである。例えば、/d/という音は、物体に当たった時に放出される音と音象徴の関係を構築する。当該の音象徴は、単音(phone)ないしは音素(phoneme)というレベルで捉えられる。また、弁別素性のレベルでは、/d/を構成する音韻素性[+strident]が、'noisiness'という意味を表すと説明される。さらに、/kr/のように、子音が連続するレベルでは、子音群(consonant cluster)や、音節(syllable)という結合体のレベルで音象徴が見られると説明される。

第2の課題は、音象徴が、言語のどのレベルで見られるのかという問題である。ある音象徴が、特定の個別言語に特有に見られる場合もあれば、歴史的偶然によって、同一言語において、複数の語に見られる場合もある。他方、個々の音、もしくは、それより大きな音韻単位や小さな単位には、特定の意味を示唆する能力が、言語普遍的に備えられているという見方もある。これらを検証するために、様々な言語を広範囲にわたり、検証する必要があることが指摘されている。

第3の課題は、音が示唆する音象徴の意味と、語が固有に持っている語彙の意味との関係を明らかにするという問題である。例えば、唇音(labial sound)は、「肥満」ないし「突出」という音象徴の意味を表す。それに伴い、3つの唇音(/p/, /m/, /b/)を含むplumpは、「肥満」を含意する。しかし、pompもまた、3つの唇音を含んでいるが、「肥満」の意味を表さず、当該の語の語彙の意味である「壮麗さ」を表す。これら2語の対比から、田守・スコウラップ(1999)は、音象徴の意味を持つ語もあれば、持たない語も存在することと、語彙の意味が一次的であり、音象徴の意味が二次的であることを指摘する。また、Lyons(1977)は、形式と意味との類似性から、類像性(iconicity)を取り上げ、その具体例として音象徴に言及している。音象徴には、2つのレベル、すなわち、一次的類像性(primary iconicity)と、二次的類像性(secondary iconicity)がある。Lyons(1977)は、cuckooを具体例として挙げ、この2つのレベルの類像性を説明する。一次的類像性とは、cuckooにおいて、その語の音と、その語が表す意味(「フクロウの鳴き声」)との間に直接的な類似性が見られる関係を指す。また、当該の語が、owl(「フクロウ」)を表す場合にも、フクロウの鳴き声の源を表す点において、一次的類像性の関係にあると見なされる。他方、二次的類似性とは、cuckooが、フクロウと結びつく抽象的なイメージである'wise'や'wisdom'を表す関係を指す。この関係は慣習的であり、比喩的關係として捉えられる。²

第4の課題は、音象徴を担う音声要素によって、どのような意味が示唆されるのかということである。通例、音象徴は、一般的な意味と対応する。例えば、硬口蓋母音は、「小さい」という意味概念と対応し、硬口蓋母音を含む語であるtiny, teeny, little, wee, itty-bittyや、硬口蓋子音と硬口蓋母音を持つ、「小さい」や、「ちびちび」、「ちまちま」がそれに該当する。

² 呂(2004)は、認知言語学の視点から、英語の擬態語、擬音語のメカニズムについて考察し、英語のbamに見られる意味拡張と、日本語のオノマトベの言語化のされ方と、英語における言語化のされ方の違いについて論じている。

本論では、特に第1の課題に見られる子音群、母音に見られる課題と、第3の課題に関連して、英語の語が持っている語彙的意味と、音象徴的意味との関係について考察する。具体的には、英語のscreamに見られる音象徴的意味が、語レベルにとどまらず、当該の語が生起する文の意味に対しても、重要な役割を果たすことを明らかにする。

はじめに、screamに見られる音象徴的意味を概観する。その上で、screamを含む前置詞句with a screamが、様態を表す副詞類(adverbial)として機能し、文に生起する際に見られる意味的特徴について、コーパスから収集した例文の観察を基に考察する。そして、screamを構成する音素に対応する、音象徴的意味が、当該前置詞句の修飾対象である動詞句の意味にも反映されていることを明らかにする。最後に、音象徴的意味に関する今後の課題について述べる。

2. screamに見られる音声的特徴と音象徴的意味について

はじめに、screamに見られる音声的特徴について概観する。screamは、(1i)の音韻的配列から構成される語であり、辞書上、動詞は(1ii)として、名詞は(1iii)として、それぞれ定義される。

- (1) i. /skri:m/
 ii. to make a loud high noise because you are hurt, frightened, excited etc
 iii. a loud high noise with your voice because you are hurt, frightened, excited etc LDOCE⁶

screamは、1音節の語である。音節の頭子音(onset)は、3つの子音が連結された/skr/であり、閉鎖音と摩擦音、流音から構成される。また、核(nucleus)は、高前舌母音/i:/である。さらに、尾子音(coda)は、鼻音/m/から構成される。

それぞれの音には、固有の音象徴的意味が見られる。Marchand(1969: 410-411)によると、語頭が/sk/で始まる語は、素速く機敏な動作(quick, brisk movement)を含意する動詞が多い。例えば、(2)に挙げる動詞が、この特徴を持っている。

- (2) skip, scour, scud, scoot, scamper, ... Marchand(1969: 410)

また、/kr/で始まる語は、耳障りで、きつすぎる、きしるような不快な音(jarring, harsh, or grating sound)、もしくは、ねじまがったような動作や位置(twisted movement or position)を表す。(3)が、その具体例として挙げられる。

- (3) croak, crow, crane, crack, crook, ... Marchand(1969: 410)

さらに、3つの子音結合/skr/は、部分的に/kr/の異形(variant)であり、不快な音(unpleasant sound)、もしくは、不規則な動き(irregular movement)を表す。興味深いことに、田守・スコウラップ(1999)は、/sk/で始まる語は、「摩擦」という意味要素を表すことを指摘する。³彼らは、この特徴を有する語として、(4)を挙げる。

³ 日本語にも英語と同様の音象徴的意味が見られる。浜野(2014: 32)は、(i)の例を挙げて、/s/から始まる語は、「抵抗のない表面を滑る様子、順調さ、滑らかさ」を示すことが多いことを指摘する。

(i) 子ども連れがサッと前の座席にすわりこんだ。

また、浜野(2014: 29)は、/k/から始まるオノマトペは、「硬質の表面に当たる音や様子」を表すことを指摘する。

(ii) キンコンカンと鐘が鳴った。

- (4) scrape, scratch, scoop, scrabble, scrub, scribble 田守・スコウラップ(1999: 135)

Marchand(1969: 411)もまた、動詞scrape, scratchは、当該の動作によって発せられる音(摩擦によって生じる音)を模倣することで形成される語であることを指摘する。このことから、/skr/が音象徴的意味として表す、「不快な音」には、摩擦が生ずる動作によって発せられる音、もしくは、この音を伴う動作が一部含まれることが示唆される。

次に、screamの核を構成する、高前舌母音/i:/について見ていく。田守・スコウラップ(1999)によると、この音は、音象徴的意味「甲高い音」と対応関係にあり、scream以外にも、(5i)に示す動詞が具体例として挙げられる。これらの語は、高前舌母音または半母音を含み、いずれも「甲高い音」を含意する。しかし、(5ii)のように、これらの音素を含まない語は、「甲高い音」を含意しない。

- (5) i. shriek, squeak, shrill, screech, scream, beep, mewl, pule, whine, yelp
 ii. moan, groan, growl, low, moo, rumble, murmur, grunt, mumble, mutter
 田守・スコウラップ(1999: 127)

また、尾子音に位置する/m/は、Marchand(1969)によると、音の振動の継続(vibrating continuation of the sound)を表している。

以上、英語のscreamを構成する、各音素に見られる音象徴的意味をまとめると、少なくとも、(6)に挙げる3つの意味が関与していることが明らかとなる。

- (6) i. /skr/ 不快な音を発する動作、または、不規則な動作
 ii. /i:/ 甲高い音
 iii. /sk/ 素速く機敏な動作、または、摩擦を伴う動作

次節では、前置詞句with a screamが副詞類として、主動詞によって表される事象を修飾する事例を観察する。

3. COCAに見られるwith a screamの意味的特徴について

本節では、The Corpus of American English (COCA)を用いて、前置詞句with a screamを含む文を検索、収集、観察し、当該前置詞句と、主動詞との間に見られる修飾関係を考察する。⁴当該前置詞句は、瞬間的もしくは急な動き、速い動作を表す動詞と修飾関係を構築し、主動詞との修飾関係によって、4つの事例、すなわち、(i)発声の動作を修飾する事例、(ii)位置変化を修飾する事例、(iii)状態変化を修飾する事例、(iv)瞬間的な動作を修飾する事例のいずれかに下位分類できることを示す。以下、各事例に見られる修飾関係について順に考察する。

3.1. 発声の動作を修飾する事例

はじめに、with a screamが、発声の動作を修飾する事例を考察する。screamの上位語に相当する語が、この動作を表す。具体例として、(7)を見てみよう。⁵

⁴ これらの用例を収集するために、検索式として、'with a scream'を使用した。

⁵ 以下、用例中の太字、イタリック体は、筆者によるものである。

- (7) a. *With a scream* she **cried**, "I shall be bound for another seven years!" (COCA, 1999, ACAD)
 b. The crowd roared, and he **responded** *with a scream* and a fist pump. (COCA, 2009, NEWS)

(7a)においてwith a screamは、動詞cryを修飾し、sheによって表される指示対象が、甲高い声で泣く様子を表している。また、(7b)においても、当該前置詞句は、動詞respondを修飾し、観衆に対して、「彼」が声高らかに答える様子を表す。

さらに、with a screamは、(8)のように、口の動きを表すopen one's mouthと修飾関係を結び、口から発せられる声の高さを表すこともできる。

- (8) He temporarily **opens his mouth** wider *with a scream* just before he is about to SLAM his jaws shut again ... (COCA, 1998, FIC)

このように、with a screamは、声を発する動作、もしくは、口の動きを表す動作を修飾し、声の高さや大きさを具現化することで、動作の様態を表している。このscreamに対応する音象徴的意味は、当該動詞句の意味と密接に対応している点において、最も典型的な修飾関係であると言える。

3.2. 位置変化を修飾する事例

次に、with a screamが、実体の位置変化を表す動詞句と修飾関係を結び、移動の様態を表す事例について考察する。この実体の位置変化は、多様な方向への変化を表す。例えば、当該前置詞句は、(9)のように、下から上への位置変化を表す動詞句と修飾関係を構築する。

- (9) ... she **jumped to her feet** *with a scream* and took to her heels as fast she could ... (COCA, 1998, FIC)

(9)におけるjump to one's feetは、「いきなり立ち上がる」という瞬間的な位置変化を表す。そして、with a screamによって、「彼女」が、その立ち上がる際、大声を出す様子が表される。

他方、当該前置詞句は、上から下への位置変化を表す動詞句を修飾することもできる。(10)に生起する動詞句は、いずれも、下方への位置変化を表している。⁶

- (10) a. *With a scream* she **fell flat** on her back as the hairy boarlike creature darted straight for her, ... (COCA, 1992, FIC)
 b. Ashla **ducked** *with a scream* and barely got her arms up protectively before they barreled through ... (COCA, 2009, FIC)

(10a)にはfall downが生起し、「彼女」が、立っている状態からバタンと音を立てて仰向けに倒れるという位置変化を表す。さらに、(10b)にはduckが生起し、立っている状態から、瞬間的に身をかがめる動作を表している。

また、with a streamは、(11)のように、下方への瞬間的な移動を表す動作を修飾することもできる。この場合も、動作が行われる際、主語名詞によって表される実体が、叫ぶ様子を表している。

⁶ (10)から明らかのように、前置詞句with a screamは、主動詞に先行する場合と、後続する場合があります。「叫び声を上げる」動作と、主動詞によって表される動作との間に見られる、時間的な先行関係には違いがあるように思われる。しかし、本論では、この時間的な先行関係の違いに関する議論は、考察の対象とせず、今後の課題とする。

- (11) a. *With a scream of anguish I threw myself to the stones to grab my friend ...*
(COCA, 2010, FIC)
- b. The boy stared at the skeleton slowly walking across the room, still far but drawing closer, its blank eyes fixed on him, and, *with a scream*, **ran back down** the stairs.
(COCA, 2002, FIC)
- c. *With a scream of pure terror* the handler suddenly **went down into** a quagmire ...
(COCA, 2011, FIC)
- d. She had taken only three steps when the springy substance beneath her fell away and she **slipped down** an oiled paper slope *with a scream*.
(COCA, 2012, FIC)

(11a)において、with a scream of anguishは、怒りの叫び声を上げる様子を表し、throw oneself toによって、友人を助けるため、とっさに石に向かって身を投じる動作が表される。また、(11b)では、run back downによって、少年が骸骨と眼があった瞬間に驚き、急いで階段を降りる状況が表されている。さらに、(11c)では、with a scream of pure terrorにより、犬の調教師が、恐怖のあまり、叫ぶ状況が表され、go down intoによって、沼地の方へ掛け降りる動作が、さらに、副詞suddenlyによって、その動作が突然行われたことが表されている。(11d)にはslip downが生起し、「彼女」が、油の塗られた紙の敷かれた傾斜を、急に滑り落ちる状況が表されている。

次に、前後の位置変化を表す動作の事例を見ていく。前方への移動を表す動詞句として、(12)の各文には、run, flingがそれぞれ生起している。

- (12) a. *With a scream*, I **ran** from the well to her side. (COCA, 1993, FIC)
- b. *With a scream*, Casimir **flung** his body across the smooth stone of the stage and slid into the gaping stairwell. (COCA, 1992, FIC)

(12a)では、この文に先行する文脈において、主語の「私」が、「彼女」の具合が悪くなったことに気づいたことが表されている。それを受けて、「私」が、驚いて、叫び声を上げながら、井戸から「彼女」のもとへ、駆け寄る場面が表されている。また、(12b)では、Casimirが、叫び声を上げながら、ステージの表面が平らな石に身を投げ出す状況が表されている。興味深いことに、with a screamは、(13)のように、後ずさりする動作を修飾する事例が多く見られる。⁷

- (13) a. She is craning forward, as if to see further into his room, when he walks by, looks at her, and **jumps back with a scream**. (COCA, 2011, FIC)
- b. ... ELIZA began conversing with her. She **leapt back with a scream** and shouted, ... (COCA, 2015, FIC)
- c. She pulled her back and down as a nearby Amalekite grabbed for his sword. He **fell back with a scream**, ... (COCA, 2001, FIC)

(13a)では、「彼女」が首を伸ばしている光景を見て、「彼」が、驚きのあまり、後ろに飛びのく様子を表し

⁷ 後ずさりする動作を表す動詞が多く生起するのは、screamの語彙の意味に指定されている、「心理的に動揺する出来事」に対して、参加者が反応し、その結果、この動作が行われることに起因するものと思われる。

ている。また、(13b)では、Elizaが会話し始めたことに対して、「彼女」が驚き、慌てて飛びのく状況が表されている。さらに、(13c)では、fall backによって、「彼」が後ずさりする動作が表されている。

3.3. 状態変化を修飾する事例

本節では、前置詞句with a streamが、瞬間的な状態変化を表す動詞句を修飾できる事例を見ていく。とりわけ、この事例には、(14)のように、「目を覚ます」動作を表す動詞wakeが多く見られる。

(14) a. Just when my lungs can take no more, I **wake** myself *with a scream of terror*.
(COCA, 2012, FIC)

b. I **woke up** *with a scream* fighting its way out of my throat. (COCA, 2010, ACAD)

(14a)において、「私」が、肺に空気を吸い込めなかったことに恐怖を感じて、叫び声を上げて、目を覚ます状況が表されている。(14b)も同様に、「私」が、悪夢にうなされ、恐怖のあまり、なんとか声を上げて目覚めた状況の中で、with a screamが使われている。また、当該の前置詞句は、自動詞awakeとも修飾関係を構築する。さらに、(15)のように、形容詞awakeによって表される、目を覚ます状態の様態を表すこともできる。

(15) The bird squawked and leaped away, its wings roaring like sudden thunder in the silent forest.
Hannah **jerked awake** *with a scream*. (COCA, 2009, FIC)

Hannahが、けいれんして驚きのあまり、大きな声を出して、目を覚ます状況が表される。また、(16)のように、with a screamは、意識を回復する動作の様態を表すこともできる。

(16) One bit hard into Krantz's calf, causing Krantz to **come out of** his stupor *with a scream*.
(COCA, 2009, FIC)

サメに、ふくらはぎを噛まれたことで、Krantzが混沌としている状況を脱して、意識を回復する際、大声を出す状況が表されている。

前置詞句with a screamは、(17)のように、制止している状況から、動作が急に始まる状況を修飾し、当該の動作に伴う摩擦音を表す場合もある。これらの例は、(14)-(16)に見られる動作に比べ、より動的に解釈される。

(17) a. The dark car comes to life with a loud low roar and **peels out** *with a scream*.
(COCA, 1997, FIC)

b. The cab **took off** *with a scream of tires*. (COCA, 2002, FIC)

c. ... we find ourselves in one of those tidy marital fights that **start off** *with a scream*, ...
(COCA, 2003, MAG)

(17a)において、with a screamがpeel outを修飾することにより、車のエンジンがかかり、うなりながら急発進する状況が表される。また、(17b)において、タクシーが、タイヤを鳴らしながら、急発進する状況が表される。さらに、(17c)では、with a screamがstart offを修飾することで、夫婦げんかが、叫び声と共に突如、始まる状況が表されている。

3.4. 瞬間的な動作を修飾する事例

最後に、with a screamが、瞬間的に行われる動作を修飾する事例を見る。この事例は、動作の速さが、動詞の語彙的意味に内包されている場合と、文脈からの情報が補完されることで表される場合とに大別される。(18)は、動詞の語彙的意味に、動作の速さが内包される事例である。

- (18) a. Then, *with a scream*, she **snapped** her arms outward as hard as she could ...
(COCA, 2007, FIC)
- b. *With a scream*, the man **seized** the stump of his wrist with his other hand ...
(COCA, 1992, FIC)

(18a)に生起するsnapによって、「彼女」が自分の腕を、鋭い音をたてて瞬間的に折る場面が表される。また、(18b)のseizeは、もう一方の腕で、腕の付け根を急につかむ場面において、大声を上げている状況を表している。この他に、with a screamが、動詞rip（「～を引き裂く」）を修飾する事例も見られる。

次に、(19)のように、文脈からの情報が補完されることで、素速く動作が行われる状況を表す事例を見る。

- (19) a. Frigga feinted to the right, then lunged at me, and *with a scream* I **drove** the sword straight through her ...
(COCA, 2001, FIC)
- b. Rocks scraped and clawed her legs, yanking her downward. *With a scream*, she **shielded** her face.
(COCA, 2017, FIC)
- c. And *with a scream of horribly stressed electronics*, the Xwing **came to a sudden dead stop**.
(COCA, 1991, FIC)

(19a)において、driveは、「私」がFriggaに剣を突き刺す動作を表している。この動作は、前後の文脈から、素速く行われたと判断できる。また、(19b)では、shieldによって、「彼女」が岩に巻き込まれて転落する際、危険回避のため、彼女が顔をとっさに覆う動作が表されることから、瞬間的な動作であることが分かる。さらに、(19c)のcome to a sudden dead stopによって、名詞Xwingによって表される指示対象が、突然、完全に停止する状況が表され、with a screamによって、その動作の際、けたたましい電気の音が立った状況が表されている。

以上、本節では、前置詞句with a screamが、上下、前後といった様々な位置変化を表す動作や、瞬間的な状態変化、瞬間的な動作を修飾する際に見られる意味的特徴を観察してきた。また、これら一連の事例において、with a screamは、突然、瞬間的に行われる事象を修飾する点において、共通していることを明らかにした。

4. screamに見られる音素、音象徴的意味と、with a streamが生起する文との意味的対応関係について

前節では、前置詞句with a screamと、動詞句によって表される事象との間に見られる、修飾関係を観察し、両者の意味的関係に基づいて、4つのタイプに下位分類できることを明らかにした。この観察に基づき、本節では、screamに見られる音象徴的意味は、語レベルにとどまらず、with a screamの修飾対象である、動詞句の意味とも対応関係にあることを示す。

screamは、その構成している音素の配列から、少なくとも3つの音象徴的意味、すなわち、「不快な音を

発する動作、または、不規則な動作」、「甲高い音」、「素速く機敏な動作、または、摩擦を伴う動作」と、それぞれ対応関係にあることを思い出していただきたい。本論では、screamに見られる、これら3つの音象徴的意味が、前置詞句with a screamの修飾対象である、動詞句の意味的特徴と対応関係にあることを主張する。

また、前置詞句with a screamと、動詞句との間に構築される修飾関係は、典型的な修飾関係から、周辺的な修飾関係に至るまで、連続体(continuity)を成していることを提案する。さらに、各事例に見られる修飾関係の度合いには違いが見られ、screamと対応する音象徴的意味が、動詞句の意味的特徴に対して、どの程度まで対応するかによって異なることを提案する。

screamの音素と、それに対応する音象徴的意味、with a screamの修飾対象、with a screamの意味機能は、表1のようにまとめられる。⁸

表1：scream内の音素、音象徴的意味と、with a screamの修飾対象、意味機能に見られる対応関係

	scream 内の 音素	scream 内の音素に対応する 音象徴的意味	with a scream の 修飾対象	with a scream の 意味機能
(i)	/skr/ /i:/ /sk/	不快な音を発する動作 甲高い音 素速く機敏な動作	発声の動作 (laugh, respond, open one's mouth, ...)	声の高さの度合い を詳述
(ii) a.	/skr/ /sk/	不規則な動作 素速く機敏な動作	位置変化 (jump, fall flat, ...) 状態変化 (wake)	動的な動作を行う 際の発声の動作
b.	/skr/ /sk/	不規則な動作 摩擦を伴う動作、素速く機敏な動作	状態変化 (peel out, take off, start off, ...)	(物体の摩擦を伴 う) 発声の動作
(iii)	/sk/	素速く機敏な動作	瞬間的な動作 (snap, seize, ...)	動作を行う時の発 声の動作

また、図1のように、screamに見られる音象徴的意味に対応する音素の種類と、当該前置詞句と動詞句との修飾の度合いの強さには、相関関係が見られる。



図1：screamの音象徴的意味に関わる音素の種類と、with a screamと動詞句の修飾の度合いの相関関係

screamを構成する音素のうち、音象徴的意味に対応する音素の数が多ければ、with a screamと動詞句との修飾関係が強く見られる傾向にある。実際のところ、screamに見られる3つの音象徴的意味に対応する場

⁸ 2節で示したように、scream内の音素/sk/に対応する音象徴的意味として、2つの動作、すなわち、「素速く機敏な動作」と、「摩擦を伴う動作」がある。しかし、表1では、(i)の該当箇所には「素速く機敏な動作」のみ記述している。「摩擦を伴う動作」とも対応する可能性があると思われるが、この点に関しては、今後の課題とする。

合、当該の前置詞句は、修飾対象を、声を発する動作に限定し、発声の高さを詳述する意味機能を担う。他方、当該の語の音象徴的意味と、主動詞の動作の意味との対応する数が少なくなるにつれて、with a screamの修飾対象とされる動作の限定性は弱まり、それに伴い、様々な動詞句と修飾関係を構築できる。

表1に示すように、screamの音象徴的意味と、それに対応するwith a screamの修飾対象は、最終的に4つの事例に下位分類される。以下、順に説明していく。(i)は、最も典型的な修飾関係が見られる事例である。この事例は、screamの音象徴的意味と対応する音素の数が3つあり(/skr/, /i:/, /sk/)、最も多い。また、この事例において、with a screamは、声を発する動作を詳述する。具体的には、/skr/によって「不快な音を発する動作」が、/i:/によって「甲高い音」が、さらに、/skr/を構成する一部である/sk/によって、「素速く機敏な動作」が、それぞれ音象徴的意味として表される。実際のところ、これらの音象徴的意味は、with a screamの修飾対象であるlaugh, respondが表す語彙の意味と、それぞれ対応する。また、with a screamは、当該の動詞によって表される声の高さを具現化する意味機能を担っている。このことから、with a screamと当該の動作は、意味的に密接な修飾関係にあり、修飾の度合いが最も高いと言える。具体例として、(20)を見る。

(20) *With a scream she cried, "I shall be bound for another seven years!"* (= (7a))

cryは、screamに見られる、3つの音象徴的意味と対応関係にある。/skr/に対応する音象徴的意味「不快な音を発する」は、cryによって発せられる叫び声を上げる動作と対応する。また、/i:/に対応する「甲高い音」は、cryの語彙的意味に内在するloudlyと対応する。さらに、/sk/に対応する「素速く機敏な動作」は、この文の前後の文脈から、叫び声を上げる動作が、瞬間的に行われていると判断できる。

次に、(iia)の対応関係について見ていく。この事例は、(i)に次いで典型性が見られる事例であり、scream内の2つの音素/skr/と/sk/によって表される音象徴的意味と対応関係にある。具体的には、/skr/によって、「不規則な動作」が、/sk/によって、「素速く機敏な動作」が、それぞれ表されている。そして、これら2つの音象徴的意味が、jumpやrunに代表される位置変化を表す動詞、もしくは、wakeに代表される状態変化を表す動詞と対応している。

さらに、この事例において、with a screamによって表される「叫び声を上げる」動作は、動詞句によって表される動作と同時にされる動作を表している。この点において、「叫び声を上げる」動作と、主動詞によって表される動作との間に見られる意味的自律性が高く、修飾の度合いが、(i)に比べて低い。(21a)と(21b)は、上下方向の動きに関わる位置変化を、(21c)と(21d)は、前後の方向の動作に関わる位置変化を、それぞれ表している。

(21) a. ... she **jumped to her feet** *with a scream* and took to her heels as fast she could ... (= (9))

b. *With a scream* she **fell flat** on her back as the hairy boarlike creature darted straight for her, ... (= (10a))

c. *With a scream*, I **ran** from the well to her side. (= (12a))

d. She is craning forward, as if to see further into his room, when he walks by, looks at her, and **jumps back** *with a scream*. (= (13a))

(21a)は、jump to one's feetによって表される「いきなり立ち上がる」動作が、/skr/と/sk/の音象徴的意味である、「不規則な動作」と、「素速く機敏な動作」にそれぞれ対応する。また、(21b)においても、動詞句fall flatによって表される「ボタンと倒れる」動作が、これに相当する。他方、前後の動きに関わる位置変化

についても同様に説明される。(21c)において、「私」が納屋から、「彼女」のもとへ、とっさに走る動作が、「不規則な動作」でかつ、「素速く機敏な動作」と対応関係にある。さらに、(21d)における、jump backによって表される「後ろに飛びのく」動作に関しても、同様の音象徴的意味が対応する。

瞬間的な状態変化を表す動詞のうち、(22)の動詞wakeに関しても、/skr/と /sk/の音象徴的意味である、「不規則な動作」と「素速く機敏な動作」にそれぞれ対応する。

(22) Just when my lungs can take no more, I **wake** myself *with a scream of terror*. (= (14a))

(22)では、恐怖のあまり、叫びながら目を覚ます動作を表す。when節内で「私」が、肺呼吸ができなくなったという不意の動作を表していることから、この動作は、「不規則な動作」でかつ、「素速く機敏な動作」として解釈される。

次に、(iib)について説明する。/skr/によって表される「不規則な動作」と、/sk/によって表される「素速く機敏な動作、摩擦を伴う動作」の意味が、それぞれ対応する。(23)がその具体例である。

(23) The cab **took off** *with a scream of tires*. (= (17b))

この例において、with a scream of tiresは、take offによって表される急発進する様子を表している。「急発進する」動作は、/sk/によって表される「摩擦を伴う動作」と対応しており、その摩擦からの解放を表す。また、この「急発進する」動作は、「不規則な動作」であり、なおかつ、「素速く機敏な動作」であることから、screamの音象徴的意味と対応関係にあると言える。

最後に、最も周辺的な事例である(iii)について見ていく。ここでは、1つの音素/sk/のみが対応しており、「素速く機敏な動作」という音象徴的意味を表す。ただし、with a soundの修飾対象とされる動詞は、「素速く機敏な動作」を表すが、動的な動作ではなく、むしろ、静的な動作を表す。この点が、(i)や(ii)の事例に見られる修飾関係と異なる点である。また、当該前置詞句と、動詞句との間の意味的自律性が高いことから、修飾の度合いが最も低い。具体例として、(24)を見てみよう。

(24) *With a scream*, the man **seized** the stump of his wrist with his other hand ... (= (18b))

(24)に見られる動詞seizeは、「急につかむ」動作を表す。この動作の瞬時性が、screamを構成する/sk/の音象徴的意味である、「素速く機敏な動作」と対応している。

5. おわりに

本論では、英語のscreamに見られる音象徴的意味は、screamの語彙的意味のみならず、その語と修飾関係を結ぶ動詞句の意味的特徴においても対応関係が見られることを論じた。そして、with a screamが生起する用例をCOCAから収集し、その観察に基づき、当該の音象徴的意味と、動詞句の語彙的意味との対応関係は、より多くの対応関係が見られる典型的な事例から、対応関係のより少ない周辺的事例に至るまで、連続体を形成していることを明示した。

今回、考察の対象をscreamに限定して議論したが、(25)のmoanやgroanのように、発声される音が、「甲高い音」を含意する語についても今後検討する必要がある。

- (25) a. Gin pressed her heel against the brakes, and the bike **slowed** *with a moan*.
(COCA, 1997, FIC)
- b. Then, *with a groan*, she **pulls her weary body** out of bed. (COCA, 2000, FIC)

screamと同様、moan, groanそれぞれに対応する音象徴的意味と、主動詞との修飾関係には、一定の対応関係が見られるように思われる。その一方で、当該の語には、screamには見られなかった意味的振る舞いも見られるように思われる。この点については、今後の課題としたい。

参考文献

- 浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトペー音象徴と構造ー』, くろしお出版, 東京.
- 呂佳蓉 (2004) 「英語のオノマトペの象徴メカニズム」, 『言語科学論集』 第10号, 99-116, 京都大学.
- Lyons, John (1977) *Semantics 1*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Marchand, Hans (1969) *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation: A Synchronic-Diachronic Approach Second, Completely Revised and Enlarged Edition*, C. H. Beck'sche Verlagsbuchhandlung, München.
- 田守育啓, ローレンス・スコウラップ (1999) 『オノマトペー形態と意味ー』, くろしお出版, 東京.

辞書

LDOCE⁶: *Longman Dictionary of Contemporary English 6th Edition* (2014) Pearson Education, Harlow.

コーパス

The Corpus of Contemporary American English (COCA): <http://corpus.byu.edu/coca/>